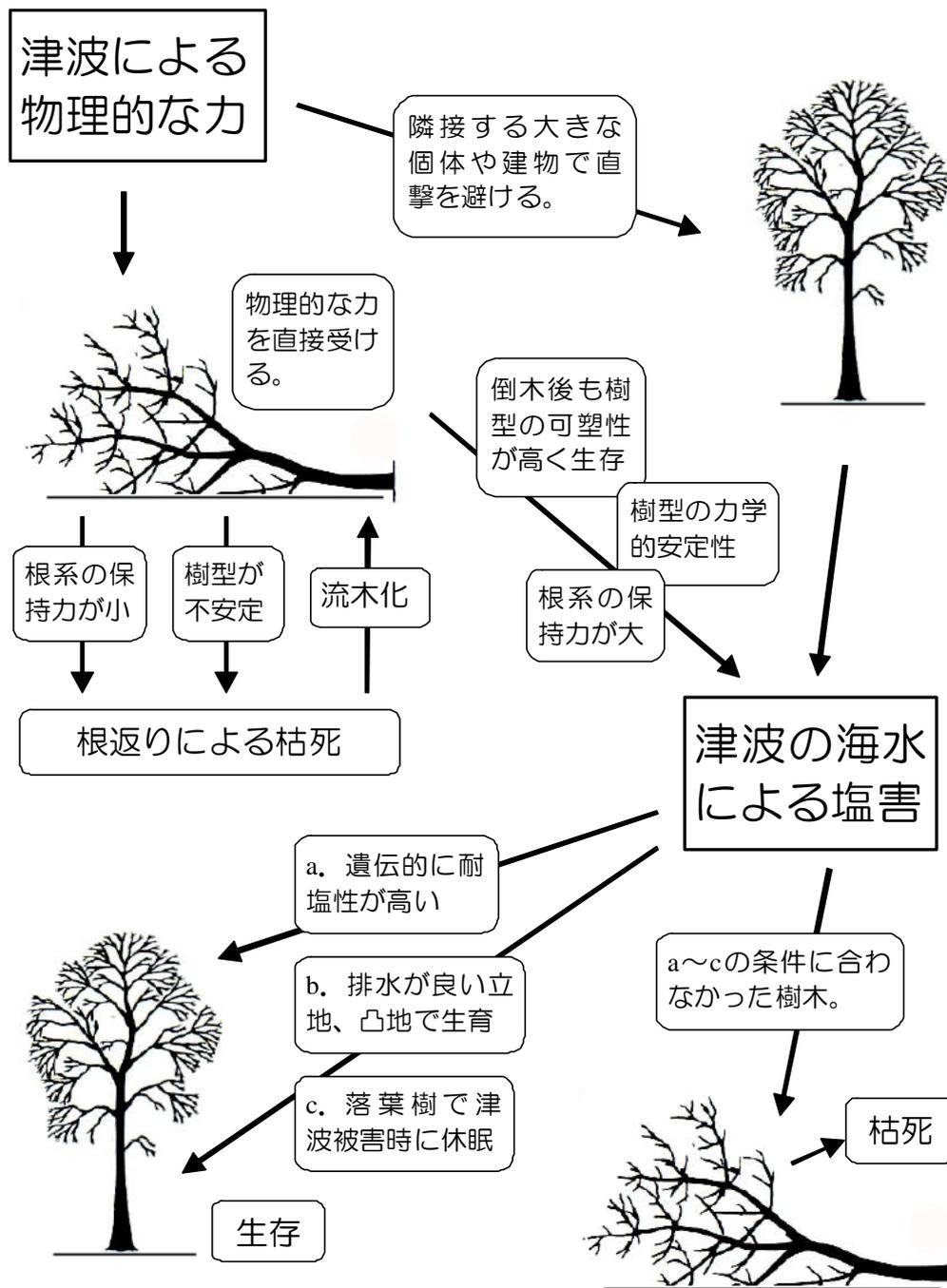


1年間の観察から

樹木が受けた津波被害



およそ1年間の観察から仙台湾周辺の津波被害を整理したものが左図（長島・攝待：印刷中）です。

津波被害は次の2つに分けて整理することができます。

まず樹木が受けた直接的な被害は、津波による物理的な力です。

根系による保持力が小さい樹木、樹幹が斜上し、不安定なものは、海水による物理的な横向き力、上向き力を受けることになります。津波被害後に復興の妨げとなったマツの流木は記憶に新しいところです。

それを耐えた樹木が次にさらされたのが、塩分被害です。従前から沿岸部で植えられてきた耐塩性の高い樹種、同じ樹種であっても、凸地に生育していた個体などは、枯死することなく生存できました。

また今回特徴的なのは、津波被害の時期です。落葉樹が開葉前であったため、塩害の影響が小さかったようです。塩害に弱いとされてきたケヤキなどが、青々とした葉をつけていました。

津波被害も単純には考えることができません。丁寧な観察が必要です。